

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 2 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593450

研究課題名(和文) 保健師基礎教育における地域看護診断の演習・実習で用いる評価ツールの開発

研究課題名(英文) Developing Tools to Evaluate Learning of the Community Health Nursing Process at the Baccalaureate Level

研究代表者

牛尾 裕子 (USHIO, YUKO)

兵庫県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：00275322

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：保健師基礎教育において地域看護診断の演習・実習で用いる、学びの評価ツールを開発することを目的とした。地域看護学教員対象のインタビューから、地域看護診断の実習・演習における学びの評価項目を作成し、これに対する地域看護学指導者への質問紙調査及び実習指導保健師へのインタビュー調査等を経て、地域看護診断の評価ルーブリックの原案を作成した。評価観点として、「重要な情報の抽出と解釈」「地域・生活の共感的理解」などの思考・判断・表現、「情報収集のためのコミュニケーション」などの技能、「公衆衛生看護の知識・理解の深化」という知識・理解、「保健師の実践へのコミットメント」などの関心・意欲・態度が見出された。

研究成果の概要(英文)：Sharing students' evaluations is important to facilitate students' learning. To learn the community health needs assessment as a part of the nursing process, students require active learning experiences, such as mixed learning, assignments in classroom, and fieldwork. This study examined how nursing students learn about the community health nursing process, focusing on the community health needs assessment, from their instructor's assessment of their learning, and developed assessment tools to evaluate student understanding of community health nursing. Ten learning evaluation points composed four dimensions, thinking, skills understanding and attitudes, were extracted. An original rubric draft was completed in this study.

研究分野：地域看護学

キーワード：地域看護診断 看護大学教育 保健師 パフォーマンス評価

1. 研究開始当初の背景

(1)地域看護診断は保健師の基礎教育において最も重要な教授内容の一つである。筆者らが地域看護診断の教授方法を分析したところ、その目的や方法の特徴など保健師活動の原理原則となる「考え方」を講義・演習・実習を通じて繰り返し伝えながら、演習や実習により、紙面上の事例や実習プログラムを用い、アセスメントのための情報収集の実施、収集した情報を分析・統合、その結果から、今後の活動の在り方を考える過程に取り組みさせていた¹⁾。実践の状況で地域看護診断が実施できるには、何が情報源になるのか、情報収集・分析をどのようにするのかなどの知識や技術を、各々バラバラに習得すればよいというものではなく、それらの知識・技術を用いて、看護実践の対象となるコミュニティを相手に、重要な情報を入手して選び出し、読み取り、統合しながら考える、総合的な判断能力が重要である。実習や演習で地域看護診断に模擬的に取り組ませる過程において、教員は、学生が地域看護診断の手順が踏めたかどうかではなく、どのように思考を展開させたのか、それは公衆衛生看護の原理原則の理解を反映しているのかを重視して教授しようとしていると考えられた。

(2)本研究で開発する評価ツールで用いる指標は、地域看護診断能力を構成する基本的な要素と各要素の到達度から構成する。到達度は、「一人でできる」「指導のもとにできる」などではなく、地域看護診断という総合的な判断能力を基礎教育において学生が獲得していく過程を反映したものとす。本研究で開発する評価ツールの特徴は、次の3点である。学生が地域看護診断を模擬的に実践する学習である、演習または実習の評価に用いる、地域看護診断能力という総合的な判断能力の、基礎教育における獲得過程を反映する、評価において到達度を判断する際の根拠とする学生の反応の例を示す。

(3)わが国の保健師基礎教育テキストを概観すると、「地域診断」「地区または地域診断」とは、「地域アセスメントに基づいて行われる次の段階²⁾」とするもの、「地域全体のとらえ方の視点と実践の過程を含む³⁾」と過程であることを強調したものがみられる。いずれもその目的は、実践あるいは実践の計画を導くものとされている。対象への介入を担う実践家の立場で行う地域診断は、問題の抽出のみでなく、同時に働きかけの方法も見出す過程である。そこで、本研究において「地域看護診断」は、問題を把握するという、実践過程の中の切り取られた一部ではなく、保健師の具体的な実践を導く過程であることを強調する考えに立ち、「特定集団・地域住民全体を含む地域生活集団(Community)に焦点をあてた看護実践を導く、看護固有の判断」とする。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域看護診断の演習及び実習で用いる、地域看護診断の学びの評価ツールを開発することである。本評価ツールは、実習あるいは演習において学生が獲得した地域看護診断能力を判定すると同時に、学生へのフィードバックとその後の教授活動計画に役立てることができることをねらいとするもので、多様な保健師教育課程で活用可能な汎用性の高いツールの開発を目指す。

3. 研究の方法

(1)地域看護学教員を対象としたインタビュー調査

学生がどのように地域看護診断に関わる総合的判断能力を獲得しているかを明らかにし、それを指標に反映させるため、地域看護診断の実習・演習における評価の際に、教員がとらえた学生の学びと、それに対し教員が判断した学びの深まりについての評価内容を調べた。得られた語りから、教員がとらえた学生の学びを、実習・演習における学生の様子・反応の単位で、それに対する教員の判断と合わせて抽出した。地域看護診断の過程に沿って、教員が捉えた学生の学びを分類し、その内容を明らかにした。学びを捉えた教育場面と反応の内容から、学生が学ぶプロセスを検討した。【調査期間】2012年10月～2013年10月

(2)地域看護診断の実習・演習の学習目標リストと学習の評価観点の内容的妥当性の検討

地域看護診断の実践能力は、断片的な知識や技能の寄せ集めではなく、総合的な判断・思考の能力である。地域看護診断の実習・演習では、事例を用いながら考える過程を踏ませ、その過程について学生がレポートや記録で表現した内容を評価する。このような能力の評価には、パフォーマンス評価という評価方法が適していると考えた。

パフォーマンス評価とは、知識を応用・活用・総合することを要求する「真正の課題」に挑戦させ、実際の完成作品を生み出させたり、実演を行わせることによって、とりわけ高次の学力の様相としての「思考力、判断力、表現力」をとらえようとするものである⁴⁾。そして、パフォーマンスを定性的に評価するツールとして、ルーブリックを採用することとした。

ルーブリックとは、米国で開発された学修評価の基準の作成方法であり、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される。パフォーマンスなどの定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがあるとされる⁵⁾。ルーブリック作成法について、ダネル⁶⁾らによると、4段階の手順で説明している。はじめ

に学習課題を設定する。第1段階は課題についての振り返りである。学生に求めていること、なぜこの課題を作ったのか等を振り返る。第2段階は、課題が完成した際にできるようになってほしい学習目標のリストを作成する。第3段階は、課題に期待する様々な事項をグループ化し、ルーブリックの評価観点に対応するものをひとまとめにして、各グループに見出しを付ける。第4段階において、第3段階で得られた評価観点と評価基準を、ルーブリックの最終形式に当てはめていく。

研究者らは、評価ツール開発の第一段階として、地域看護診断の実習・演習における評価の際に、教員がとらえた学生の学びと、それに対し教員が判断した学びの深まりについての評価内容を調べた。そこで、第一段階の結果に基づき、地域看護診断の実習・演習における学習目標リストを作成した。リストは、同じ意味内容のものでグループ化し、ルーブリックの左縦欄の内容にあたる、評価の観点とした。

(2)-1 地域看護学指導者アンケート調査

本調査の目的は、筆者らが作成した地域看護診断の実習・演習の学習目標リストと学習の評価観点の内容的妥当性について、大学で地域看護学を担当する教員と保健師の双方の意見から、検討することである。無記名自記式調査用紙により、1 地域看護診断の実習・演習における学習目標リストとその学習の評価の観点に対する、適合性、学習目標としての重要度、修得を目指す学習段階、

自由記述による意見、2 地域看護診断の実習演習における、リストに上がっていない学習目標、3 回答者自身の属性(年代、所属、経験年数など)を調査した。学習目標リストの各項目についての適合性、重要度の回答結果、自由記述の意見、追加すべき学習目標についての意見を質的記述的に分析し、地域看護診断の実習・演習の学習目標リストを検討修正した。【調査期間】2014年8月~12月

(2)-2 保健師インタビュー調査

(2)-1と同じく地域看護診断の実習・演習の学習目標リストと学習の評価規準(評価の観点)の内容的妥当性について、実習指導経験のある保健師からの意見から検証することを目的とした。実習指導経験のある保健師を対象に、意味の明確さ、分かりやすさ、実際の実習指導場面にあてはめた時の適用性・現実性について意見聴取を実施した。【調査期間】2015年1~2月

(3)地域看護診断の学び評価ルーブリック原案の作成

地域看護学教員を対象とした地域看護診断の実習・演習の学生の学び評価に関するインタビュー調査により、教員が捉えた学生の学びの内容を明らかにし、意味内容の類似

性・相違性に基づき、地域看護診断の過程を参照してカテゴリー化した。そのうえで、地域看護診断の実習・演習の学びのプロセスと構造を検討し、これをもとに、地域看護学教員を対象としたワークショップを実施し、その結果を基に、研究者らで検討し、地域看護診断の学び評価ルーブリック原案を作成した。

4. 研究成果

教員インタビュー結果から抽出した地域看護診断の学びの内容を、地域看護診断の過程にそった「地域看護診断に関わる情報の収集とヘルスニーズの分析・抽出」「地域看護診断に基づいた計画立案」と、地域看護診断過程に含むことが困難なカテゴリーとして「専門職としての態度価値観考への内在化」の3カテゴリー8項目に分類した。(2)-1 地域看護学指導者アンケート調査及び(2)-2 保健師インタビュー調査はこの分類を基に実施した。

地域看護診断の過程に含むことが困難な項目を検討する中で、評価の4観点「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」を採用することとしたが、当初は、4観点のうち、既習の知識や技術を適用する学習である実習・演習であることを考慮して「知識・理解」を除き、3観点「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」12項目に再分類した。ルーブリック作成の第一段階の教員ワークショップではこの3観点12項目をもとに、検討した。

ワークショップ後の研究メンバーによる検討の過程において、実習・演習の段階特有の「知識・理解」の修得があるとの考えに至ったことから、最終的に評価の4観点のすべてを採用し、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点10項目からなる評価の観点を決定し、地域看護学教員ワークショップで得られた資料をもとに、研究者会議によってルーブリック原案を作成した。

本研究の成果として、最終的にルーブリック原案で採用した地域看護診断の実習・演習の評価の観点を次に示す。

思考・判断	重要な情報の抽出と解釈 ニーズ抽出のための情報の関連づけ ニーズに基づく計画作成 地域・生活の共感的理解 社会資源の機能の評価
技能・表現	情報収集のための対人コミュニケーション 考えとその根拠の説明
知識・理解	公衆衛生看護の知識・理解の深化
情意・態度	保健師の実践へのコミットメント 地域生活者へのコミットメント

ルーブリック原案は、データ数が限られた

こともあり、評価項目ごとに目標到達達成度を判断する評価基準までを明らかにすることができなかつた。そこで、基礎教育において目指す地域看護診断の学びの最終的な学生のパフォーマンスを示すにとどめた。今後はさらに分析を進めつつ、データを追加し、ルーブリックを完成させることが課題である。

本研究成果に基づくルーブリックの開発により、課題に取り組む学生とこれを指導する教員との間で評価を共有し、その結果を学習支援に活かすことが可能になると考える。またこの評価ツールは、各大学それぞれのカリキュラムやその中で多様な地域看護診断の教育プログラムの内容に左右されず、柔軟に応用可能なツールの開発が期待できる。

<引用文献>

- 1) 牛尾裕子・松下光子・飯野理恵．公衆衛生看護教育を担当する大学教員が「地区診断」の教育において重視していた教授内容．日本地域看護学会誌．16(3)，2014. 82-89.
- 2) 櫻井しのぶ．地域診断．荒賀直子・後閑容子，第3版公衆衛生看護学.jp, 103-122，インターネットメディカル，東京，2011.
- 3) 齋藤恵美子．地域診断．平野かよ子，最新保健学講座5公衆衛生看護管理論第3版，2-61，メヂカルフレンド社，東京，2011.
- 4) 田中耕治．教育評価．東京，岩波書店，2008. 146-167.
- 5) 沖 裕貴・井上史子・林素子．日本の大学におけるルーブリック評価導入の方策と課題～客観的、厳格かつ公正な成績評価を目指して～．日本教育情報学会第8回年会論文集．(28)，2012．166-169.
- 6) ダネル・スティーブンス、アントニア・レピ(佐藤浩章監訳)．大学教員のためのルーブリック評価入門．東京，玉川大学出版部，2014.p180．

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計2件)

牛尾 裕子．学士課程看護学基礎教育課程における地区診断の演習・実習教育の現状，兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要，査読有，21，2014. 37-48．
牛尾 裕子・松下 光子・飯野 理恵．公衆衛生看護教育を担当する大学教員が「地区診断」の教育において重視していた教授内容，日本地域看護学会誌，査読有，16(3)，2014. 82-89，

[学会発表](計4件)

Yuko Ushio, Mitsuko Matsushita, Rie Iino, Misa Shiomi, Tomoko Miyashiba, Junko Shimasawa, Kyoko Komaki, Kazuko Takemura. Developing Tools to Evaluate Learning of the Community Health Nursing Process at the Baccalaureate Level (report 1): Students' Learning on Community Health Needs Assessment

from Their Instructor's Assessment. The 6th international conference on community health nursing research, Aug. 2015. 19-21. Seol National University Cultural Center (Seoul, S.KOREA) * scheduled

Misa Shiomi, Yuko Ushio, Mitsuko Matsushita, Rie Iino, Tomoko Miyashiba, Junko Shimasawa, Kyoko Komaki, Kazuko Takemura. Developing Tools to Evaluate Learning of the Community Health Nursing Process at the Baccalaureate Level (report 2): Development of an Original Rubric Draft to Evaluate Learning Outcomes. The 6th international conference on community health nursing research, Aug. 2015. 19-21. Seol National University Cultural Center (Seoul, S.KOREA) * scheduled
牛尾 裕子・松下 光子・飯野 理恵・嶋澤 順子・宮芝 智子・塩見 美抄・小巻 京子．地区診断の実習演習における看護大学生の学びの過程，第34回日本看護科学学会各術集会，2014. 12. 30. 名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)
牛尾裕子・松下光子・飯野理恵・嶋澤順子・宮芝智子・塩見美抄・小巻京子・竹村和子．地区診断の実習・演習における学生の学びに対する教員の評価視点，第17回日本地域看護学会学術集会，2014. 8. 2. 岡山コンベンションセンター(岡山県岡山市)

[その他]

<http://chiiki-cnas.jp/research/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

牛尾 裕子 (USHIO Yuko)
兵庫県立大学・看護学部・准教授
研究者番号：00275322

(2) 研究分担者

塩見 美抄 (SHIOMI Misa)
兵庫県立大学・看護学部・准教授
研究者番号：10362766

松下 光子 (MATSUSHITA Mitsuko)
岐阜県立看護大学・教授
研究者番号：60326113

飯野 理恵 (IINO Rie)
千葉大学大学院・看護学研究科・助教
研究者番号：40513958

(3) 連携研究者

宮芝 智子 (MIYASHIBA Tomoko)
神奈川県立保健福祉大学・看護学科・准教授
研究者番号：20321119

嶋澤 順子(SIMASAWA Junko)
東京慈恵会医科大学・医学部看護学科・教授
研究者番号：00331348

(4)研究協力者

小巻 京子(KOMAKI Kyoko)
兵庫県立大学看護学部

竹村 和子(TAKEMURA Kazuko)
兵庫県立大学看護学部